

つなぐれ和泉っ子

令和5年1月10日

～人と社会と未来の自分～

和泉

1月号


<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izu>

いにしえびと

古人の思いを受け継いで

校長 中澤 道則

年が改まり、令和も5年目を迎えました。保護者、地域の皆様には旧年中、大変お世話になり、ありがとうございました。本年も引き続き、どうぞ宜しくお願いいたします。

毎年、暮れには煮しめを作ることが、我が家での「私の仕事」になっています。シイタケは少し甘辛く、クワイは芽を折らないように…。一つひとつ、具材を丁度良い味と柔らかさに煮しめてから一緒に炊き上げます。ちなみに右の写真は、私が作った煮しめです…。さて、煮しめに限らず行事食には一つひとつ意味がある場合が多いです。煮しめのレンコンは先が見通せるように、サトイモは子孫繁栄を願い、クワイは出世を願って。そんなたくさんの願いを「参の重」にぎっしり詰めこんでお正月を迎えるのです。煮しめを含む「おせち料理」も、同じくお正月に食べる「お雑煮」も、その土地々々で様々な特色があります。このお正月にはそんな「郷土の味」を味わった方も多かったのではないのでしょうか。



また、冬休み中、1月7日は五節句の一つ、「人日（じんじつ）の節句」でした。他の節句は三月三日の桃の節句、五月五日の端午の節句、七月七日の七夕、九月九日の重陽の節句と比較的有名ですが、この人日の節句は比較的、忘れられがちです。この日には、古来「七草粥」を食べて、その年の無病息災を祈る習慣があります。春の七草。「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ（カブ）、スズシロ（ダイコン）」の七草ですね。この習慣は、緑黄色野菜が不足しがちな冬場にビタミンを補給することで健康を維持することができるという「生活の知恵」から生まれてきたようです。なんだか12月号に引き続いて「食」の話題になってしまいましたが、ともあれ、古人の「知恵」と「願い」が現在まで脈々と受け継がれてきている伝統行事、これからも大切にしていきたいものです。

さて、今年の干支は卯、「ウサギ年」です。六十干支でいうと「癸卯」になるのだそうです。「癸卯」の「癸」は十干の最後であることから「区切りがつく」という意味をもっているということです。そして「卯年」は、ウサギが跳ねることから「飛躍」、「繁栄」を表しているのだそうです。両方を合わせると「区切りがついて繁栄する」…。なんだか「コロナの終息」と「経済の回復」を思わせませんか？もっとも、新型コロナウイルス感染症についてはまだまだ予断を許さない状況です。今年度も残すところあと3か月。実際に子ども達が学校に来るのもあと52回（6年生は49回）です。今年も感染症拡大防止に努めつつ、子ども達が笑顔で豊かな学校生活を送ることができるよう、教職員一同、努めてまいります。保護者・地域の皆様におかれましては、本年も倍旧のご支援をお賜りますよう、お願い申し上げます。